

平成 26 年度

東京藝術大学 大学院 映像研究科 メディア映像専攻 修士課程入学試験

第 2 次試験 [課題]

次の 4 つの詩から、ひとつをモチーフとして選び
あなたなりの映像を作ってください。

- ・ 中原中也 「サーカス」
- ・ 松本隆 「花いちもんめ」
- ・ 宮沢賢治 「生徒諸君に寄せる」
- ・ 三好達治 「僕は」

※ 編集上の注意

- ・ 本編の長さは 3 分程度。
- ・ 作品クレジット等を本編に入れる必要はありません。
- ・ 制作に関わった協力者等がいる場合には、別紙に正確な情報を記入して、ディスクと一緒に提出してください。
- ・ 提出するディスクは DVD-Video として作成し、メニューを経由せずに作品がスタートするようにしてください。
- ・ 制作された映像および音声は入学試験の審査だけを目的に用います。

中原中也「サーカス」

幾時代かがありまして
茶色い戦争ありました

幾時代かがありまして
冬は疾風吹きました

幾時代かがありまして
今夜此処での一と殷盛り
今夜此処での一と殷盛り

サーカス小屋は高い梁
そこに一つのブランコだ
見えるともないブランコだ

頭倒さに手を垂れて
汚れ木綿の屋蓋のもと
ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

その近くの白い灯が
安値いりボンと息を吐き

観客様はみな鯛
咽喉が鳴ります牡蠣殻と
ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

屋外は真ッ闇 闇の闇
夜は劫々と更けまする
落下傘奴のノスタルデアと
ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

松本隆 「花いちもんめ」

ぼくらが

電車通りを駆け抜けると

巻きおこる

たつまぎで街はぐらぐら

おしゃれな風は花びらひらひら

陽炎の街

まるで花ばたけ

紙芝居屋が

店をたたんだあとの

狭い

路次裏はヒーローでいっぱい

土埃の風の子たちにやあ

七つの海も

まるで箱庭さ

右手の烟突は

黄色い煙を吐き

左手の烟突は

紅い煙を吐く

みんな妙に怒りっぽいまたい

みんな妙に怒りっぽいまたい

宮沢賢治「生徒諸君に寄せる」

生徒諸君

諸君はこの颯爽たる

諸君の未來圏から吹いて來る

透明な清潔な風を感じないのか

それは一つの送られた光線であり

決せられた南の風である

諸君はこの時代に強ひられ率ゐられて
奴隸のやうに忍従することを欲するか

今日の歴史や地史の資料からのみ論ずるならば

われらの祖先乃至はわれらに至るまで

すべての信仰や徳性は

ただ誤解から生じたときへ見え

しかも科學はいまだに暗く

われらに自殺と自棄のみをしか保證せぬ

むしろ諸君よ

更にあらたな正しい時代をつくれ

諸君よ

紺いろの地平線が膨らみ高まるときに

諸君はその中に没することを欲するか

じつに諸君は此の地平線に於ける

あらゆる形の山嶽でなければならぬ

宙宇は絶えずわれらによつて變化する

誰が誰よりどうだとか

誰の仕事がどうしたとか

そんなことを言つてゐるひまがあるか

新たな詩人よ

雲から光から嵐から

透明なエネルギーを得て

人と地球によるべき形を暗示せよ

新しい時代のコペルニクスよ
餘りに重苦しい重力の法則から
この銀河系統を解き放て

衝動のやうにさへ行はれる
すべての農業労働を
冷く透明な解析によつて
その藍いろの影といつしよに
舞踏の範圍にまで高めよ

新たな時代のマルクスよ
これらの盲目的衝動から動く世界を
素晴らしく美しい構成に變へよ

新しい時代のダーヴキンよ
更に東洋風靜觀のチャレンジャーに載つて
銀河系空間の外にも至り
透明に深く正しい地史と
増訂された生物學をわれらに示せ

おほよそ統計に従はば
諸君のなかには少くとも千人の天才がなければならぬ
素質ある諸君はただにこれらを刻み出すべきである

潮や風……
あらゆる自然の力を用ひ盡すことから一足進んで
諸君は新たな自然を形成するのに努めねばならぬ

ああ諸君はいま
この颯爽たる諸君の未來圏から吹いて來る
透明な風を感じないのか

さう、さうだ、笛の心は慰まない、如何なる歌の過剰にも、笛の心は慰まない、友よ、この笛を吹くな、この笛はもうならない。僕は、僕はもう疲れてしまった、僕はもう、僕の歌を歌ってしまった、この笛を吹くな、この笛はもうならない、——昨日の歌はどこへ行つたか？ 追憶は帰つてこない！ 春が来た、友よ、君らの歌を歌つて呉れ、君らの歌の、やさしい歌の悲哀で、僕の悲哀を慰めて呉れ。

昨日の歌はどこへ行つたか？ 思出は帰つてこない！ 昨日の恋はどこへ行つたか？ やさしい少女は帰つてこない！ 彼女はどこへ行つたか？ 昨日の雲は帰つてこない！ ああ、いづこの街の黄昏に、やさしい彼女の会話があるか、彼女の窓の黄昏に、いかなる会話の微笑があるか、僕は、僕はもう知らない、春が来た、友よ、君らの歌を歌つて呉れ、君らの歌の、やさしい歌の悲哀で、僕の悲哀を慰めて呉れ。

僕は今日、春浅い流れに沿つて、並樹の影を歩いたので、空は曇つてゐた、僕は、野景に、遠い畑や火見櫓を眺めたのだ、森の梢に鶉が光つて飛んでゐた。風に、高圧線が鳴つてゐた。それから、いろいろの悲しい憧憬れが、僕に、僕の頬に、少し涙を流したのだ、僕は、僕は疲れて帰つて来たのだ、僕はもう追憶の行衛を知らない、友よ、春が来た、君らの歌を歌つて呉れ、君らの歌の、やさしい歌の悲哀で、僕の悲哀を慰めて呉れ。

受験番号

氏名

協力者氏名	分担した作業（出演、撮影、編集、美術など）